

# 絵画の中 の はきもの

—靴がつなく旅—

見— 眞理子

ポーンと蹴り上げた靴が思っていたより高く舞い上がって、想像もしていなかった場所に着地することってありますよね、そう、広島まで飛んだのです。

銀座の初個展で靴をモチーフにした作品を発表したことがきっかけで、たくさんの靴業界の方達との出会いがありました。そのご縁で「靴の日」のポスターに使っていただいたり、若い靴職人さん達とのコラボ展開催など次々と素敵な企画に参加することができました。

広島県福山市の日本はきもの博物館から出展のご依頼をいただいた時は、驚きと高揚感でいっぱいになったことを今でも鮮明に覚えています。

シューズ・アート・ギャラリー「◆モチーフとしての靴◆」という企画展と伺い、本当にこの私の作品でいいのだろうかと不安を感じながらも、これはきっと「赤い靴紐」いや「紅い鼻緒」が結んでくれた縁なのだ、既に思いは広島に飛んでいました。そしてそれは両親を伴った思い出深い「親孝行旅行」へと繋がりました。

福山市松永町は下駄産業で栄えた歴史ある地で、レトロな風情溢れる館内には膨大なコレクションが展示されており、「はきもの」の奥の深さにとにかく圧倒されました。私の創作意欲を掻き立てる素材でいっぱい、再びゆっくり訪れたいと願いながらも、実際は当館のホームページ閲覧とい

う形で、イベントの様子やワークショップの子供達の笑顔を拝見していました。

当館が昨年11月24日で閉館になったと知り、本当に残念でなりません。2015年度には福山市が再オープンを予定していると聞きましたが、「はきもの」を愛し続けた当館の皆さんの心意気が大切に継承されることを願ってやみません。

そして、ここしばらく青空目掛けて靴を蹴りあげてを忘れていた自分に気がつきました。そろそろパワーを貯めて靴を飛ばしてみようか、今度はどこに着地するかを楽しみに……。



木のかたち（下駄と木型）